
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 369 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2014.08.22（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1063 部*****

前回配信から 1 か月以上経ってしまいました。今年の猛暑も強烈です。読者の
みなさん夏バテしていませんか？ また各地では、豪雨による被害があいつい
でいます。収穫間近にした農作物が被害に遭った農家の方々は無念の一言では
ないでしょうか。被災地の皆様には謹んでお見舞い申し上げます。

□ 目 次 □-----

<巻頭言> いま、日本の“戦場”は地方・農村にあり！ 塩谷哲夫

<山崎農業研究所 第 148 回定例研究会（速報）>

テーマ：新たなアフリカ農業・農村開発支援と課題

日時：2014 年 4 月 26 日（土）13:30～17:00

3. アフリカにおける生活改善活動—日本の経験を通じて

……服部朋子氏（NTC インターナショナル）

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.132』発行されました

<編集後記> 腑に落ちるといふこと——内山節著作集発刊に思う

<巻頭言> いま、日本の“戦場”は地方・農村にあり！

私は 5 月 2 日付の『電子耕』351 号に、国立社会保障・人口問題研究所が発表
した「2040 年の人口推計」を受けて関連データを検索した結果、日本の地方・
農村の疲弊の急速な進行を確認して、「TPP を云々する前に」と題するコメン
トを発信した。

この懸念を別の角度から投射したのが日本創生会議（座長：増田寛也元総務
相・元岩手県知事）による 2040 年に、“896 市町村消滅”という衝撃の試算結
果の発表であった。「若年女性の減少」をパラメータとした分析手法が当を得
たものであるかどうかなどの検証の必要があるだろうが、日本の自治体の半分

にも及ぶ市町村が消滅するというのはただ事ではない。

秋田 96%、青森 87.5%、島根 84.2%…など、地方農村部が消滅への坂を転げ落ちつつあることを示している。また、大都市にもブラックホールが生じていることにも注目したい。

3.11 の復興がなかなか進まないことの背景には、東北地方の多くの地域には、被災する以前から、ここに示されたような窮状があったのではないのだろうか。県や市町村が誘致した企業の多くは、もっと低賃金の労働力を求めて海外に引っ越してすでに撤退してしまった。働きたくとも就労の場がないのではないか。農林漁業も担い手が高齢化してしまって、農地も森林も漁船も、かつてのように元気に活かしてゆくことは難しくなっているのではないか。

被災地を旧に復することさえ困難なところへ、東京発の近代化・大規模化の威勢の良いモデルプランは“絵に描いた餅”で、それを食えるほどの体力がないのではないか（虎視眈々と、それを食おうと狙っている都会の企業はいるかもしれないが）。そんなプランではなく、地元からの、実現可能な将来の安定した地域社会の姿を描き、それへの歩みを実現させる仕組みと予算をつけさせることが必要なのではないか。

こんな時に、戦争をやれる国にしようなんてうつつを抜かしている場合ではない…それは私の想い。

いやいや、こんな時こそ敵国を作って勇ましく進軍ラッパを吹き鳴らし、国民をその気にさせて、国民の生命とお金を出してもらおう…それは安倍首相の想い。彼の祖父岸信介の時代の日本にはそんな歴史があった。戦犯からよみがえった岸は首相となったが、「平和憲法」に妨げられてその思いを遂げられず、その夢は孫の安倍晋三に託されている。

いや、待った！ これから福島、沖縄の県知事選がある。来春には統一地方選挙がある。地方・農村が日本の流れを変える“戦場”だ。

塩谷哲夫

山崎農業研究所幹事・東京農工大名誉教授

yamazaki@yamazaki-i.org

<山崎農業研究所 第148回定例研究会（速報）>

日時：2014年4月26日（土）13:30～17:00

場所：東京都千代田区三崎町3-6-15 内海ビル101会議室

テーマ：新たなアフリカ農業・農村開発支援と課題

1. 紛争終了地域のコミュニティ再生と技術支援

……岩本彰氏（NTC インターナショナル・代表取締役社長）

2. 農産品振興と輸出——ブルキナ・ファソを事例として

……高木茂氏（NTC インターナショナル）

3. アフリカにおける生活改善活動—日本の経験を通じて

……服部朋子氏（NTC インターナショナル）

3. アフリカにおける生活改善活動—日本の経験を通じて

……服部朋子氏（NTC インターナショナル）

1) いままでの日本における生活改善運動の特徴

アフリカの生活改善に日本の体験を現地の状態に合わせて適応したい。わが国の戦後の経験として、農村開発、貧困削減を目指して、各省庁では事業分野別におこなわれたが、農水省関係では農地改革、農協制度を進める中で生活改善普及事業を進めた。生活を改善のための主体的に考える農民の育成、集団思考を進めるために、生活技術の改善、教育、実行グループ育成に力を入れた。農家主婦、青少年を対象にした。食事、睡眠・休養、衛生、健康に対する環境の改善を農業生産性向上に連動した農業生産技術と組み合わせた。「改善」の精神をはっきり意識して進むことが大切。

高度な技術や大きな資金無しによくすること。知恵と工夫。発想の転換。自己を改善する。持続させる努力。これが「改善」の内容であり精神である。事例として台所の「不合理カマドの改善」。作業着の改善、リサイクル、「ムリ、ムラ、ムダ」の排除、家計収支とのバランス。女性の労働負担減、労働力再生産に必要な休養。グループのネットワーク化、地域資源や地域固有の知識を生かす。他の組織との連携・協力、成果の公表、行政との連携、住民主体の指導体制。このようなわが国の体験は大変貴重であり、農業・農村発展に大いに役立つと考えられる。

2) アフリカにおける適応事例

(1) セネガル

大きな障害は暑さ、家事多忙、保守的なものの考え方にある。始めに、日本の視聴覚教材を現地語に直し、普及の目標をたてる。現地では6村で生活改善のワークショップを開催した。衛生改善、健康改善に力を入れた。重要なものにゴミ問題がある。ゴミが野外に捨てられて散乱する。これを無くすためにゴミ箱を各村に置いた。その結果、ゴミを放棄しなくなって蚊・蠅・悪臭発生も減少した。ダイオキシンはゴミ、ビニールなど、燃焼で生じる。ダイオキシンの大気濃度、風邪、マラリア・下痢などの減少もあった。

リサイクル利用、プラスチック分別、家庭ゴミの管理・清潔、連帯感の増進を図った。中でも健康問題は重要であった。すべて住民の意見を第一に尊重した。農民水利組合をつくり生活改善運動に結びつけた。今後の問題として、清掃用具の改善、女性の地位向上、普及員の増強などが望まれる。

(2) ザンビア

基本はセネガルと同じであるが、まず「不合理カマドの改善」から始めた。働きやすい位置に調理台を作る。排煙換気口をつける、食器棚を設けるなどして不便な床上生活からの改善を図った。グループで頼母子講を作り生活改善の内容を豊かなものにした。原資に JICA 技プロ支援+家庭菜園収入+保存食販売収入を加え、増額した。また、食器を天日干しで殺菌した。

住居改善として、水浴びの囲いをつける、女性のためのトイレ改善などを行った。栄養改善として、乾期の野菜不足解消に保存食、乾燥野菜の利用促進、伝統食の復活、新たな調理法、展示会開催などで普及を図った。グループ活動に力を入れた。グループを通して情報の共有、リサイクル廃物利用の促進、煉瓦造り、養鶏・牛の飼育、栄養改善に地域資源活用、HIV への啓蒙活動等、今後も総合的に持続的な活動を進めることが大切である。

(3) ケニア

農水省の職員が教会やラジオ放送などで普及活動の情報を PR した。特に女性・親戚などにも繋がりを持たせて、生活改善のためのグループ形成を試みた。頼母子講なども取り入れた。一方男性グループでは農村金融の促進を進めた。家庭用に共同利用の給水タンクを作った。台所改善として「省エネ・カマド」をつくり、燃料費の節約、やけどの防止、調理・栄養改善、家事にもあまり時間をかけずに出来るようにした。

その他、養鶏・牛・ヤギの飼育、オーガニック肥料生産、家庭菜園の普及を進めた。食品加工に乾燥フルーツを作る。直売所、レストラン、工芸品、苗木育苗施設を設け、改善運動資金とした。農民・職員の研修・訓練センターも出来た。グループの育成が大切である。

3) 今後の課題

生活改善運動を国家レベルで進める必要がある。収入向上に直結しない運動を如何に進めるか。経済活動と非経済活動をはっきりさせた運動計画の立案が重要。国情や地域の人々の意見を尊重しつつ、如何に持続性を持たせるか、技術支援プロジェクトにおける本邦研修成果の評価から、現地の問題点をはっきりさせ、それに対応できる計画的研修派遣が今後の課題である。

(文責：安富・田口)

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.133』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.133』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布(有料：1,000円)いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

■山崎農業研究所 40 周年記念

山崎農業研究所を支える力— 40 年を振り返って◎安富六郎

〈山崎イズムを現代に問う〉

- ・研究活動における山崎イズム◎田淵俊雄
- ・研究をもっと技術に生かすために◎多田 敦
- ・山崎不二夫先生の全人間的な研究実践に学ぶ◎熊澤喜久雄
- ・コンサルタントと研究所◎横澤 誠

〈研究所活動をめぐって〉

- ・現地に学び現地とともに◎小泉浩郎
- ・定例研究会について◎石川秀勇
- ・「耕」「電子耕」単行本を通じた社会への発信◎田口 均
- ・研究所のこれからを考える◎渡邊 博

〈山崎(記念)農業賞受賞者はいま〉

- ・丸藤政吉〈第5回・1979年〉現場と共に＝「農村通信」創刊800号
- ・小林芳正〈第8回・1982年〉ふるさとへの想い—いまでも消えることなく
- ・古野隆雄・久美子〈第21回・1996年〉合鴨家族の20年
——進化し続ける合鴨水稲同時作
- ・鋸谷 茂〈第29回・2004年〉自然の摂理に基づいた林業技術を現場で実践
- ・榎本牧場〈第30回・2005年〉都市近郊で酪農の6次化をさらに展開
- ・大張物産センターなんでもや〈第32回・2007年〉
地区民が求める「なんでもや」であり続けること

・野口種苗研究所・野口 勲〈第 33 回・2008 年〉

自然回帰の時代のなかで固定種の普及につとめる

・NPO 法人 福島県有機農業ネットワーク〈第 36 回・2012 年〉

福島の有機農業再興のために

■第 147 定例研究会 愛郷 vs 愛国— TPP 問題へのもう一つの視座◎宇根 豊
〈書評〉宇根 豊 著『百姓学宣言』／徳永光俊

<編集後記> 腑に落ちるといふこと——内山節著作集発刊に思う

過日 (07/27)、明治大学で行なわれた『内山節著作集』全 15 巻・『哲学者 内山 節の世界』発刊記念シンポジウムを聞きに出かけてきた。

内山さんの基調講演「主権はどこにあるのか」で興味深かったのは、さまざまな「あいまいさ」のなかで戦後の民主主義は成り立っていた、いや、あいまいさのなかでかろうじて維持されるのが民主主義だという指摘である。内山さんにいわせれば、憲法九条は戦後的あいまいさの代表である。安倍政権がめざしているのは、さまざまな戦後的あいまいさの一扫だと。とすれば、安倍政権の国家主義的なうごきは、民主主義のもつある種ヌエ的な本質をこわすことにもつながるのではないか。

パネルディスカッションのテーマは「3.11 以降、新たな共同がどこに向かっているのか」。内山さんのほか、神田強平さん（群馬県上野村村長）、下田美鈴さん（熊本県山都町立図書館長・農業）、畠山重篤さん（NPO 森は海の恋人理事長）が参加し、東京海洋大の濱田武士さんのコーディネーターで行なわれた。

おもしろいな、と思ったのはパネリストの方々が、内山さんの著作を読むと「腑に落ちることが多い」と述べられていたこと。『『農山村を賛美する新しい農本主義…』』と言われたこともある」というエピソードを内山さんは話されていたが、農山村で暮らす人々にとっては、自分たちがもやもやと感じていて、でも言葉にできなかつた大事なことを、内山さんが誰にでも理解できる言葉で表現したことに感謝し、とともに自己理解がふかまったことによるこびを感じている、ということなのだろう。

当日、会場は 180 人を超える参加者で一杯になった。「農山村を賛美する新しい農本主義…」と内山さんが言われたのはいまから 30 年ほど前のこと。農山村

の暮らしの土台にある自然と人間の関係性に着目する内山さんの思想は、今日の時代状況のなかでひとときわ注目を集めている。

■内山節著作集

第1回配本『自然と人間の哲学』

定価：3,132円（税込）

ISBNコード：9784540141300

発行日：2014/07

出版：農山漁村文化協会(農文協)

判型/頁数：四六判上製/344ページ

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_54014130/

■哲学者 内山 節の世界

かがり火編集委員会編

発行年月日 2014年7月31日

書籍価格（消費税込） 2160円

ISBNコード：9784794809742

版型/頁数：四六判並製/394ページ

http://www.shinhyoron.co.jp/cgi-db/s_db/kensakutan.cgi?j1=978-4-7948-0974-2

2014年08月21日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考——グローバル化の次は何か』

（発売：2008/11 定価：1,575円）

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの方の書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）

グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考ーグローバル化の次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：神流アトリエ日記（3）「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rirel.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎小谷敏さん（大妻女子大学）

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎塩見直紀さん（半農半X 研究所、執筆者）

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

-
- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
 - 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
 - 3、1回1テーマ、10行位に。
 - 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
 - 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 370 号の締め切りは 09 月 01 日、発行は 09 月 04 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 368 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2014.08.22（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****